

全會徒の年齢の制限を知りたし、三、生徒の品性最も高く成績最も善良にして其他の設備の完全なる理想的の研究所あらば知りたし、(豊臣秀吉の孫) ◎一、美術學校か又は研究所に入るを可とす。二、現在の出席者人数各科を通じて五十人程目下女子の通學者は一人なり、年齢の制限なし、三、不明。

■一、日本水彩畫會研究所を卒業し如何なる道に入れば畫伯に成り得べきか。二、故大下先生の畫集の發行期を問ふ。三、關西支部事務所々在所を問ふ。四、本年は夏期講習會を開會されまませんか。◎一、藝術は一生の研究なれば他の學科の如く、規則的にどう云ふ方法がよいと云へない、只當人の心掛次第である、才分の必要なる事は勿論である、其上に健固なる意志と、眞面目なる研究を続けると云ふ事が肝心である。二、未定、三、卷末の水彩畫會會告の内を見られたし。四、未定。

讀者の領分

■『みづゑ』四月號は、挿繪も本文も、皆非常に有益な物ばかりでした、毎號このように、内容の充實した雑誌を、出して下さるのは、我等の大なる幸と思ひます、深く編輯の方々へ感謝します。岩村、岡野、岡田、吉田、藤島、諸先生が、賛助員たるを承諾された、との記事を讀んだ時、心は躍りました。(成節生) ■八六號の繪畫は眞に善くあつた、奮つて居た、第一枚目の原色版ハドソン河はさすが萩原氏の筆に成りしものにして非常によく感じが著はされて居る、アルプス山中の白雲岩、馬鹿に大きな岩がつたつて夕陽に反射して居る、様いかに立派だ直は小島氏の山岳水彩畫家を對照して見ると又一段面白かつた、故大下氏の椿は實にうまい、目がさめるやうな奇麗な色を使はれて描かれて有る、本誌に故人二人の原色版が出て居る故に直はコスモスを思はせる、肖像畫は背色と前略がつり合ふ、戸張氏の餘興頗る得意世界天地我一人か?大

下先生の繪日記實に巧に描かれて、一線も無駄がない、榎本氏の雪の朝當地にもこんなものがある、終りに臨んで私のみづゑに對する希望は原色版挿繪を多くしてもらいたい、故主筆が歸らぬ旅路に途かれても續々斯道の大家が賛助下されるは愛讀者の此の上ない希望である、益々貴會の隆盛を祈る、又誌上に各大家の肖像を寫眞にして出してもらいたい(無名氏)

寄稿を募る

水彩畫寫生旅行、水彩畫展覽會紹介は批評、水彩描寫の經驗談、又は想錄、水彩畫に、關係ある書籍(和洋を問はずの批評、水彩畫家の傳記、等其他苟くも水彩畫に關係したるものは、種類を問はず、寄稿を募る。文體及び長短等は、凡べて隨意なり、他はすべて卷末の會告による、毎號の登載文中優秀なるものは「みづゑ」一部を贈呈す(その號數は掲載の分か、もしくは次號たるべきこと)